

令和6年度「ゆかり市長の出張トーク」 開催結果

皆さんのもとに市長が伺い、市政やまちづくりについて意見交換を行う、令和6年度「ゆかり市長の出張トーク」を開催しました。次のとおり概要をお知らせします。

第1回 令和6年5月14日（火）

団体名 : 田辺女性部 / ドスコイ相撲部 / 更生保護女性会9地区（田辺）
開催時間 : 18時55分～20時05分
会場 : 田辺公民館
参加人数 : 12人
テーマ : 地域を盛り上げるために
子どもたちの未来を明るく楽しいものにするために ほか

【主な内容】

■団体から

- ・「ふるさとの魅力を市内外に発信したい」「ふるさとを誇りに思ってもらいたい」との気持ちで活動している。その一環で、地元の火祭りを盛り上げるため、「ドスコイなでしこおとぼけ相撲」を始めたが、経費面の課題があるため、支援してもらえないか。また、市内のイベントで「ドスコイなでしこおとぼけ相撲」の力士が行進や踊りを披露する機会があると良い。
- ・この地域に住み始めた頃は、知人もおらず心細かったが、地域の仲間と活動ができて、今は心強いし頼りにしている。自分たちの活動を若い世代に押し付けたくはないが、地域の子どもたちが喜ぶ姿を見て、若い世代の人がやってみようと思ってくれたら嬉しい。
- ・西山公園の遊具が壊れた後、撤去・新設されないままになっている。湖南地区は後回しにされているのではないかと感じているので、早急に公園の整備をお願いしたい。
- ・児童の登下校を見守るキョロブラ運動に参加しているが、地域の方々の高齢化が進み、また、若い世代は仕事のため、活動に参加できる住民は少ない。全国では、「わんわんパトロール」といって、ベストを着用して犬の散歩をすることで犯罪の抑止力となっている事例もある。キョロブラ運動のように引率まではできなくても、わんわんパトロールのように少しお手伝いということが仕組みとしてできると良い。

■市長から

- ・住んでいる方々が地域の良さを認識し、地域を盛り上げるために、実際に行動に移すエネルギーが素晴らしい。モデル的な活動なので、ぜひ活動を継続してほしい。
- ・核になって活躍されている方々を応援したいが、補完性の原理が基本的な考え方で、全てを行政が支えられるわけではなく、飲食に関する費用など、補助金の対象に

することが馴染まないものもあることをご理解いただきたい。補助金等での支援となれば公費が入ることになるので、使途が適正であることの確認が必要であることをご理解いただきたい。申請書類の取り揃えなど大変な苦勞とすることがあるかもしれないが、枠組みを作ると徐々に慣れて来る。補助を受ける側も補助を行う側もお互いの立場を理解し合う必要がある。イベントへの出演は、主催者に相談し、実現してほしい。

・西山公園の課題は承知しており、大事な公園なので整備をしていく予定。市内の公園は、「諏訪市公園施設長寿命化計画」に基づき計画的に整備を行っているが、補助金を活用するための研究をしているところなのでご理解いただきたい。

・「わんわんパトロール」の事例をお聞きし、とても良い取り組みだと感じた。市教育委員会に提案してほしい。

感想・意見など

開催後に、アンケートで寄せられた感想や意見を抜粋して掲載します。

- ・親しみを感じながら、和やかに、リラックスした話し合いの時間を持つことができた。
- ・普段の思いを忌憚^{きたん}なく話すことができた。
- ・終始、笑いに包まれた楽しい、かつ、真剣で熱気あふれるトークだった。
- ・（「ゆかり市長の出張トーク」に申し込んで懇談を）やってよかった。
- ・新聞で取り上げてもらい、記事を見た多くの人から励ましの言葉をもらったことに感謝している。



第2回 令和6年8月8日（木）

団体名 : 新体操クラブオリーブ
開催時間 : 18時24分～19時34分
会場 : 諏訪市公民館 視聴覚室
参加人数 : 7人
テーマ : 社会体育について

【主な内容】

■団体から

- ・学校の体育館の貸し出し開始の時間を早めてもらうことができないか。練習開始の時間が遅くなるので、終了も遅くなり、子どもたちの生活リズムが乱れてしまう。
- ・社会体育団体で学校の体育館を借りる際、学校の備品や暖房を使用させてほしい。マットは20枚ほど必要だが、体育館内に団体の備品を保管することはできないので、活動の都度持ち運びをすることになると現実的でない。照明は実費徴収金を支払うので、同じような考え方で備品の費用を支払い、使用することができないか。
- ・市内の体育館は、音楽を使用する団体の場合、体育館全面の予約をしなければならないが、体育館全面の空きが少ないので予約自体が難しい。同じ時間に使う団体と話をして了解を得て使用できると良い。自分たちで交渉することはできるが、そもそも「音楽を使用する団体は、体育館全面の予約をしなければならない」というルールがあるので、予約自体ができない。また、少人数でも体育館全面の予約をしなければならないとなると、ほかにも使いたい人や団体がいるので、もったいないとも思う。

■市長から

- ・「学校体育施設スポーツ開放遵守事項」によって開放時間を決定しているが、事情があれば学校長の判断で貸し出しの時間の変更が可能なので、学校長に申し入れをすれば早い時間から借りられる可能性はある。特に小学校低学年くらいまでは、生活リズムが大切。早い時間から体育館が使えるのであれば、その方が良いことは理解する。
- ・学校長の考えや学校の事情があれば、希望する時間から使用できないこともやむを得ないが、市教育委員会に今日の報告をするとともに話をする機会を設けるよう調整したい。
- ・人口減少の時代になり、公共施設も対応する必要がある。建物の老朽化が進むことやまばらな利用であってもこれまでと同様の管理をしなければならないという非効率な状況が発生することになるため、早めに対策を行わなければならない。そこで、公共施設マネジメントに取り組んでいる。
- ・かつては、スポーツの種類がそれほど多くなかったので、みんなが同じスポーツをやるが多かったが、今は様々なスポーツがある。人数の多少に関係なく取り組みたいスポーツがある人は同じように施設を使用したい。限られた施設を融通して使用する

ことが大切で、使用していない時間があるのならばもったいないということになるので有効に施設を活用できると良い。

感想・意見など

開催後に、アンケートで寄せられた感想や意見を抜粋して掲載します。

・「ゆかり市長の出張トーク」という機会があり、市長と直接、話や相談ができて良かった。



第3回 令和6年11月21日（木）

団体名 : 日本語学習支援さくらの会
開催時間 : 10時00分～11時03分
会場 : 諏訪市総合福祉センター 湯小路いきいき元気館 会議室
参加人数 : 6人
テーマ : 行政と協力して地域で多文化共生社会を創る活動を効果的に進めていく
にはどうしたらよいか

【主な内容】

■団体から

- ・市内に居住している外国人の日本語の学習支援を行っている団体。日本語学習支援のほか、お互いの文化を伝える機会を作るなど異文化交流を行っている。
- ・日本語が分からない外国籍の子どもが増えている。学校は、年齢が到達すれば卒業せざるを得ないため、十分な学力を身に付けてから社会に出ることができない子どもも多い。
- ・地域に住む外国籍の住民は、情報が得られずにいるため、課題を抱えて生活している。課題を解決するために市に相談するが、担当課で話が止まってしまい、納得する解決に至らない。多文化共生という大きなテーマとして、市全体で解決を図ってほしい。
- ・高齢者、障がい者、外国人等に対する災害時の危機管理が遅れている気がする。
- ・コロナ禍以降、対面ではなくインターネットを活用して学習を行うことが一般的になった。必要な機器を揃えたいが、参加者が負担する月謝では揃えることができず、学習に支障を来している。
- ・「やさしい日本語」を積極的に普及してほしい。
- ・外国籍の従業員のサポートができる企業に勤務する人の状況はある程度把握できる。把握できない人の中には、大変苦勞している人がいると思うが、実態が把握できない。

■市長から

- ・重要な課題に取り組んでいただいており、感謝申し上げます。誰もが自分らしくいきいきと暮らせる環境が大切であるとマニフェストに掲げている。
- ・企業が日本に招いて働きに来ている保護者は、企業内で語学のサポートを受けられる体制があるのではないかとと思うが、子どもたちはどうしているのか気になっていた。日本に住む外国籍の子どもたちが社会に出て行くための教育は、日本人と同じではうまくいかないのでは、そのサポート体制の充実度が課題であると認識した。このことは以前から気になっていたもので、今回招いていただいてありがたい。
- ・すわ☆あゆみステーションを設置し、これまで各担当課で受けていた子どもに関する相談等を一本化した。外国籍の住民の皆さんの困りごとを解決するヒントにな

るかもしれない。

- ・みんなが同じ教室で同じことを一斉に学ぶという、明治以来の日本の学習スタイルは、今の時代に合わないと言われている。学校内でのフォローをどのようにしたらいいのか考えなければならない。

- ・A I やインターネットを活用した学習もできる時代になった。計算や記憶は、コンピュータがやってくれる時代になり、これからの社会で生きる子どもたちは、想像力や行動力などを身に付けることが重要ということで諏訪市教育大綱を定めた。

- ・災害時の対応も重要な課題。緊急時には日本語が分かるか否かは関係なく支援が必要。

- ・パソコンなどの機器は何か支援できることがあるか検討したい。全てを行政が支援することは難しいので寄附の申し出を受けるのも良いのではないかと。

- ・「やさしい日本語」の研修を実施している企業もあるのではないかと。実施していない企業が研修を実施する際、諏訪市が共催や後援をすることも考えられる。まずは「やさしい日本語」のことを知ってもらうことが必要。

- ・諏訪市に住む外国籍の住民の人数、言語、働き方、年齢など、実態の把握は必要。

感想・意見など

開催後に、アンケートで寄せられた感想や意見を抜粋して掲載します。

- ・次世代を担う子どもたちのために日本語学習支援活動を通して多文化共生の地域づくりに努めていく。



団体名 : 太陽工業株式会社 Earth Friends Team
開催時間 : 14時00分～14時58分
会場 : 諏訪市役所 302会議室
参加人数 : 2人
テーマ : 清掃活動の和を広げるためのゴミ拾い促進企画について

【主な内容】

■団体から

・Earth Friends Teamは、太陽工業株式会社の方針でもある「ESG※経営による持続可能性」の一環として、SDGs 活動を推進する中で有志が組織したチーム。社会貢献活動、ESG ビジネスチャンス創出、文化交流活動などに取り組んでいる。

※ESG: Environment (環境)、Social (社会)、Governance (企業統治) の頭文字をとった略語。企業が環境、社会、企業統治に配慮する考え方。

・月に1回ほどゴミ拾い活動をしている。諏訪市は観光都市なのできれいな都市であってほしいと思い、ゴミ拾い活動を続けているが、なかなかゴミが減らない。一方で、活動への参加者は減っている状況。

・今回は、ゴミ拾いに関するアプリの導入を提案したい。活動や量の記録、写真の掲載、情報発信などができるアプリ。アプリの使用者同士でのコミュニケーションを取ることもできる。ゴミ拾いが見える化することで活動が活発になることが期待できる。また、「諏訪市環境基本条例」の基本理念にも合致し、「第三次諏訪市環境基本計画」の目標の達成のために行政だけでなく、市民や企業が一丸となって取り組むことができるのではないかな。

・近隣市町村の中には導入を検討したところがあったようだが、費用面で導入に至っていないと聞いた。企業や他市町村と共同で導入することで費用負担が抑えられる可能性がある。

・企業も CSR が求められており、アプリという目に見える形で活動への参加が分かるというメリットがある。

・諏訪湖サイクリングロードの開通、諏訪湖エイトピークスミドルトライアスロン、諏訪湖マラソンなどがあり県外からも多くの人が諏訪に来ている。注目される機会が増えたので、諏訪地域の魅力が上がり、評判が高くなれば、移住者の増加につながる可能性もあるのではないかな。

■市長から

・当市でもアプリの導入を検討したことがあり、有効なツールと認識している。運営主体に問い合わせをしたことがあるが、近隣市町村と同様に費用面の課題から導入に至らなかった。

・企業、団体や諏訪地域の他市町村が共同で導入して費用を負担する可能性や募金という方法も考えられる。「日本の屋根から地球環境にコミットしよう」と訴えてきているので、どのように実現できるか、継続できるかを考える必要がある。全市一斉清掃に参加していただいている団体等を紹介することができるので、皆さんが主体になって働きかけてみてはどうか。

・行政が費用を負担すると、他人事になってしまい活動が縮小してしまうことがある。意欲のある人が主体的に行うことで効果が上がる。意欲を持って活動し、新たな提案をしていただいたことを心強く思うので、このモチベーションを周囲に波及させたい。

・行政から話を持ちかけると圧力に感じてしまうことがある。皆さんが活動をし、提案をいただくことの価値は大きい。

感想・意見など

開催後に、アンケートで寄せられた感想や意見を抜粋して掲載します。

- ・有意義で具体的な話し合いができた。
- ・社内で活動に参加する人数が減少している。活動を継続するためにも、市と相談しながら進めていきたい。



第4回 令和7年1月28日（火）

団体名 : 諏訪市民生児童委員協議会
開催時間 : 18時00分～19時06分
会場 : 諏訪市役所 302会議室
参加人数 : 9人
テーマ : 民生児童委員・主任児童委員に対する報酬支払など待遇改善について

ほか

【主な内容】

■団体から

- ・民生児童委員は、地域福祉の向上のためのボランティアであり、実費弁償として活動費が支給されていることは承知をしているが、活動費の金額が活動の実態や物価の上昇に合わないと感じる。また、諏訪市は現在、定数の120人が充足しているが、民生児童委員の担い手不足という課題もある。
- ・全国的に見ると、活動費の金額は地域によってばらつきがある。民生児童委員の担い手不足などの課題があるので問題提起をさせていただいた。様々な要因を勘案しつつ、市として活動費の増額や報酬の支払いについて検討してほしい。また、福祉委員の役割も担っているので、福祉委員費の見直しも検討してほしい。
- ・民生児童委員は、地域と行政のつなぎ役といわれており、その役割として国や県から示されている内容はあるが、どこまでを担うべきか明確にしてほしい。やるべき最低限のことを行うとしても負担が増しているという現状を理解していただきたい。
- ・地区によって改選への対応に差がある。民生児童委員を引き受けてくれる人を探すことが難しい。
- ・民生児童委員が地域に必要な役割であるとすれば、無償のボランティアというあり方でいいのか、有償にしてでも制度を継続していく必要があるのか議論の余地があるのではないか。
- ・任期が1期のみでは、地域の方々に顔を知ってもらうことや経験が求められる民生児童委員の役割を果たすことができないのではないかという心配がある。一方で、複数任期を務めることの負担感がある。
- ・自身が退任するときには、「欠員が出てもしやむを得ない」「引っ越してでも」というくらいの気持ちでなければ民生児童委員をやめることができない状況である。
- ・地区全体の福祉に関することは地区が担い、その中で個別に支援が必要な人を民生児童委員が支援するというのが本来のあり方だと思うが、地区によっては民生児童委員に大きな負担がかかっている状況がある。
- ・民生児童委員の改選と事務局である市職員の異動のタイミングで連携がうまくいかないことがある。市職員の人事異動に理解はするが、福祉部門の職員の異動について配慮をお願いしたい。
- ・待遇の改善を実現することは簡単ではないと理解しているが、全国的にもそのよ

うな声が上がっていることから、この機会に話をした。

■市長から

- ・日頃から地域の頼れる相談者としてお力添えをいただいていることに感謝を申し上げます。
- ・民生児童委員は、厚生労働大臣からの委嘱であり、報酬を支払うことを検討するのであれば、国の議論が必要である。
- ・引き受ける人がいないという課題は、民生児童委員だけではなく消防団なども同様である。活動費の増額や報酬の支払いによって引き受ける人が増えるかという、それだけではないようにも思う。
- ・このような声が上がるということは、大変なご苦勞をいただいていると拝察する。負担が大きくなり過ぎないうちに相談をしてほしい。
- ・諏訪市の民生児童委員は、定数の120人が充足しているが、そのことがプレッシャーでもあると受け止めた。
- ・人事異動に関しては、特定の部局のみ配慮ができるものではないことにご理解をいただきたい。引継ぎを十分に行い、事務に支障が出ないように担当部局と職員に伝える。
- ・「分かり合う自由な対話」を大切にしているので、素直な気持ちを伝えてほしい。学校との連携に関しても、学校側でも理解する気持ちを持っているので遠慮なく伝えてほしい。

感想・意見など

開催後に、アンケートで寄せられた感想や意見を抜粋して掲載します。

- ・難しいテーマだったが、良い意見交換の場で有意義だった。
- ・民生委員のあるべき姿、役割の整理、成り手不足対策の議論を高める必要を感じた。

